



日本を護る会 レポート

平成 29 年 9 月

第 28 号

理事長挨拶：

平成 29 年度最初のレポートをお届けします。

① 7 月 8 日には第 24 回研修会として昨年に続いて国立劇場での歌舞伎教室に参加し、我が国の伝統である歌舞伎についての基礎知識を学び、歌舞伎の素晴らしさに参加者一同改めて感動しました。

②また、夏休み中の 8 月 30 日には第 25 回研修会として航空自衛隊入間基地を訪問して C-1 輸送機を実地に見学してパイロットから説明を受けたり、医学実験隊で戦闘機パイロットの上空での低圧の中での酸素の重要性や体重の 8 倍も身体の懸かる重圧に耐える訓練の状況の説明も受けて現場の隊員の方達の御苦労の一端を理解すると共に修武台記念館では我が国の軍事航空の歴史を学び、大変有意義な一日を過ごしました。

③さらに、9 月 2 日の第 9 回定時総会では昨年度の成果を会員の皆様に報告すると共に今後の当会の発展を期しての認定 NPO 法人申請のための定款の改正について事務局から説明を行い、了承されました。総会の後には駐日サン・マリノ共和国特命全権大使のマンリオ・カデロ閣下の「日本人に知って欲しい真の日本の素晴らしさ」と題した大変感動的な御講演を戴き、我々日本人が自国の文化・伝統を良く理解して大切にすべき事を改めて考える機会を同大使が与えて下さいました。続いての懇親会では大使から大変美味しいサン・マリノのワインを沢山戴き、それを味わいつつ、フルート演奏と歌曲独唱と共に誠に楽しく賑やかなひと時となりました。当会は本年度も、会員の皆様の建設的な御意見を戴きつつ活動の充実を図りたく考えますので、引き続き御支援、御協力の程を宜しくお願い申し上げます。

理事長 大橋 武郎

第 24 回研修会 国立劇場 歌舞伎鑑賞教室

平成 29 年 7 月 8 日（土） 14：30～



7 月 8 日（土）、国立劇場で催された歌舞伎鑑賞教室に参加し、我が国の伝統芸能である歌舞伎について改めて勉強しました。（参加者 29 名）

大劇場（座席数：1,500 余）は外国人観光客や若い中・高生などで満席状態でした。

初めに、若手歌舞伎役者：坂東亀蔵による「歌舞伎のみかた」として、舞台の配置・構造、音曲効果、演技のみどころ等の字幕表示を交えたわかりやすい説明があった。その後、演目である「一條大蔵譚」(2幕)を鑑賞しました。役者方の迫力ある素晴らしい演技に、一同、日本の伝統芸能の世界にすっかり引き込まれその魅力を堪能しました。

歌舞伎教室の後は、近くのレストランで参加者による懇親会を開き、余韻にひたりつつ軽い食事等を楽しみながら感想等を語り合い、大満足のうちに閉会しました。

この鑑賞教室は毎年7月に行われますので、来年もまた企画したく考えます。

参加者感想文

○ 歌舞伎の鑑賞は初めてでしたが、最初に「歌舞伎のみかた」の説明もあり、お囃子や舞台装置など、細かなところまで教えて頂き、親しみがわき楽しめました。演目の一條大蔵譚の内容も初心者にはとても分かりやすく、400年続く日本の伝統文化をこのような形で再認識できる機会を与えて頂き感謝でした。伝統文化の価値を知り、後代に伝えていくこともまた日本の精神文化を護ることに繋がるので、改めて重要だと思いました。ありがとうございます。(高杉詩織さん:一般参加)

○ 今回は2回目の歌舞伎鑑賞でした。前回は解説がなかったので、「花道」や「廻り舞台」などの説明は解りやすく大変良かったと思います。解説を聞く中で感心したのは、どうやって舞台と観客に一体感を持たせるかの工夫でした。長い歴史の中で試行錯誤して今日の歌舞伎が出来上がったことを良く理解できました。演劇は私の勉強不足もあって聞き取れないセリフもありましたが、解説のイヤホンがカバーしてくれたので楽しく鑑賞できました。日本文化を肌で感じた歌舞伎鑑賞でした。(大橋太郎さん:会員参加)



第25回研修会 航空自衛隊 入間基地見学

平成29年8月30日(水) 10:00~

当会は8月30日航空自衛隊入間基地見学会を催しました。当日は好天に恵まれ朝10時に西武池袋線稲荷山駅に集合、40人弱という結構な大人数となり駅から入間基地正門に歩いて5分ほどで移動しました。

同基地は1938年(昭和3年)に陸軍士官学校豊岡分校が開設され翌年航空士官学校となって発足した場所です。1954年(昭和29年)航空自衛隊が創設され1958年航空自衛隊入間基地として発足今日に至っています。

正門で接遇する隊員に笑顔で迎えられた我々は当初の予定を変更、先ず中部地域(宮城県北部から兵庫県西部)を移動して航空警戒管制をする第二移動警戒隊のトラック積載レーダーやこれを支える発電機を見て滑走路に移動します。空自現用のC-1輸送機を見その輸送室に入り意外な広さに驚きます。降下隊員だと30人位は乗れるのではないのでしょうか。積載量は8トンといますから旧軍重爆撃機

の4倍にもなります。滑走路をこのC-1が度々轟音を上げ離着陸して航空基地の雰囲気と味合わせてくれました。その中にアッと驚くYS-11輸送機、かつて世界中で旅客機として活躍した同機も老朽化し殆どが引退、今や自衛隊でのみ最後の2機が使われているそうです。なお現用C-1も来年からは純国産、性能もアップしたC-2に代わる予定です。さて次は航空医学実験隊、航空医学の調査研究、医学適正検査、航空生理訓練を行う所との事ですが我々の目を引いたのはG耐性検査・実験機、要は一人乗りの小箱(?)様なもの。これを遠心分離機よろしくブン回し6G(重力の6倍)に耐えられるかを検査します。これに堪えられないと乗員失格。相当きつそうですね。この機械は9G迄実験出来るそうです。午前中の研修は以上を以て終わり、楽しい昼食になりました。隊員食堂で隊員と同じメニュー、この日は肉うどんと味付けごはん、にサラダ、バナナなどが付きました。これで代金は386円也。安くて量もあり味も・・・今一つかな?ごめんなさい。

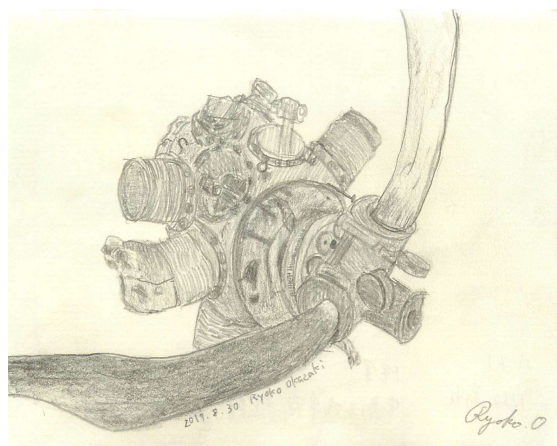


(C-1 輸送機)



(特攻ロケット機「桜花」)

昼食、休憩の次は航空歴史資料館「修武台記念館」に移り、まずガイダンスシアターへ。ここでは映画を見ながら入間基地は総面積90万坪、敗戦後米軍がジョンソン基地として移駐し1978年(昭和53年)返還された事、現在作戦部隊6個、同支援部隊5個などが所在している事、航空機は約50機いるが戦闘機はいない、人員・貨物輸送は自衛隊一の規模であるなど基本的なことを学びました。そしていよいよ最終コース歴史資料館見学です。ここには我が国航空揺籃期から戦前の帝国陸軍航空最盛期の頃、そして現在の航空自衛隊の様々な貴重な資料が展示されています。中でも往年の名機「鍾馗」のエンジン、プロペラ、様々な写真、生徒のノートや文房具を見るとここで謳歌した青春、苦心そして死、は見る者には胸迫るものがあります。有名な「軍神」加藤少将の航空服実物もありますがその小柄な事にビックリ。大戦末期に登場した人間爆弾「桜花」、これは本当に小さな一人乗りロケットです。始めから死が決まって出撃する乗員の心持如何ばかりであったか肅然と致します。展示品最後の方は自衛隊関係でここは何となく色も鮮やか、気持ちも晴れるようです。模型展示のブルーインパルスと来れば1964年東京オリンピック開会式会場上空に描いた五輪マーク、今も目に浮かびます。願わくは某隣国の暴挙に邪魔されることなく2020年ブルーパルスが舞来たり東京五輪上空に再びあの5色の輪を咲かせ、見るものに幸福感を与えてくれますよう。など参加者に色々な感慨を与えつつ研修は無事全行程を終えました。所が館外に出るとそこは篠つく豪雨さあ大変。資料館からわずかにバスに移動するだけでずぶ濡れです。ここで我々は朝の予定変更に大きな意味があったことに気が付きました。もし原案通りだったら午前中を館内研修でつぶし午後大雨で野外のレーダーやら



二式戦鍾馗エンジン岡崎良子さん作画

滑走路にある C-1 などとはとても見られなかったでしょう。自衛隊さんの親切な対応説明そして素晴らしい勘、有難うございました。

とはいうもののバスをおりて駅への移動も大難渋、この間全大雨難民(?)を車でピストン輸送し駅に送って下さった M 理事、U 役員は殊勲甲、有難うございました。



航空自衛隊 C-1 輸送機前での集合写真

★以下は今回の研修会に参加された方がお寄せ下さった感想文です。有難うございました。★

(若林駿さん：一般参加)

昨日の研修会に参加させて頂いた若林駿です。簡単で恐縮ですが所感になります。

自衛隊の施設や隊員の方々のご活動を直接拝見したのは今回が初めてでした。

輸送機を間近で見る機会は貴重で新鮮でした。修武台記念館では先人の努力が今日の日本国の防衛に繋がっていることが分かり、感謝の気持ちが湧いてきました。

以上です。昨日は貴重な場を設けてくださりましてありがとうございました。

(水船 義久さん：一般参加)

本日の入間基地研修会参加させていただき有り難う御座いました。

移動警戒レーダー・C1 輸送機・航空医学実験隊の見学滑走路でのタッチ&ゴーの訓練などまじかに見れた事、滑走路では小石一つでも事故に繋がるので注意しているなど普段知らないことが分かり

大変勉強になりました。又、修武台記念館では航空の歴史から近代までおおいに勉強になりました。案内にあたった入間基地の自衛官の皆様にも感謝申し上げます。今回の研修会を企画していただいた会長並びに事務局にも御礼申し上げます。

第9回定時総会

平成29年9月2日（土）10:00～

水交会（東郷神社）

9月2日に第9回定時総会が水交会にて行われました。

司会の萱場 浩之氏からの開会挨拶から始まり、大橋武郎理事長が議長に選出され、議事が進行しました。第一号議案「平成28年度事業報告」は望月 靖夫氏、第二号議案「平成28年度収支決算報告書」は大橋 勇郎氏、第三号議案「平成29年度事業報告（案）」は望月 靖夫氏、第四号議案「平成29年度収支決算報告書（案）」は大橋 勇郎氏、第五号議案「定款変更」と第六号議案「理事及び役員交代」は大橋 武郎理事長からそれぞれ説明があり、全て承認されて質疑応答の後に司会の萱場 浩之氏が閉会の言葉を述べて無事に閉会しました。次に総会講演会が開かれ、講演会後は懇親会がカデロ特命全権大使を囲んで和やかに催されました。

総会講演会演題：「日本人に知って欲しい真の日本の素晴らしさ」

講師：駐日サン・マリノ共和国大使 マンリオ・カデロ閣下

講師略歴

イタリアのシエナにて出生。イタリアで高等学校を卒業後、パリのソルボンヌ大学に留学。フランス文学、諸外国語、語源学を修得。パリ滞在中の4年半の間、ウィーン大学、シエナ大学、マドリッドのマンゴルド学院等の夏期講座や言葉・文化コースにて研鑽を積む。1975年に来日、東京に移住。1989年に、在日本サンマリノ共和国の領事として任命される。

サンマリノ共和国に関する宣伝活動その他の功績が認められ、以下の勲章を受章する。

1994年 聖アガタ騎士勲章、1999年 聖アガタコメンダトーレ勲章、2003年 聖アガタ大十字勲章、2005年 聖マウリツィオ・ラザロ騎士団上級騎士勲章、

2010年 イタリア共和国騎士勲章 2002年12月、日本初のサンマリノ共和国特命全権大使として任命される。様々なボランティア活動にも参加。

2009年-2010年駐日大使代表として平和大使、2011年5月23日より、駐日外交団団長。2011年7月8日東京国際大学特命教授就任。2012年2月観光庁アドバイザーに任命、現在もサンマリノ共和国の特命全権大使として、外交活動を継続中。



私はいろいろな国、特に東南アジアの国に行ってその国の人に逢いますが、皆日本の事を尊敬しています。講演もしますので、最後に「もし時間とお金があったらどこの国に行きたいですか?」と質問をしますと80%位の人が、「日本に行って見たい」と言います。理由を聞くと、「日本は我々と同じアジア人ですが、小さな国で、火山も多く、地震や津波もあり、戦争では酷い目に遭っているのに見事に立ち直って経済的にも文化的にも進んでいるからです」と答えます。アメリカは大きな国ですが、国民健康保険がありません。日本は皆健康保険に入っている、恐らくホームレスの人も健康保険に入っていると思います。

日本文化の根源は神道

日本はとてもユニークな国です。この根源は何か?と考えますと、これは恐らく縄文時代からある神

道だと思います。この神道のお陰で日本では子供の時から家庭や国の教育において勤勉で責任感を持ち、厳しさより正しさを重んじた教育がなされているのだと思います。ベトナム、タイ、インドネシア等のアジアの国々に行きますが、その点では日本とは似ていません。日本に住むとは皆さん親切ですし、治安も良くて住み易いです。日本人は大変マメです。このような国は世界で他にありません。特に多くの外国人が驚くのは日本のお土産です。日本はお土産の国です。特に包装が綺麗です。中身より包装紙の方が高いのではないか、と思う場合さえあります。この点でアングロサクソン系の人達は大雑把です。これらの人達は日本を学んだら良いと思います。特にアメリカ人は日本人に較べて謙虚さが足りません。謙虚で素晴らしいのは天皇陛下です。その謙虚で優しい態度に心打たれますが、その基は神道だと思います。

靖国神社の大切さ

私の所には諸外国の新任大使が挨拶に来ますが、「必ず日本の文化を勉強して、靖国神社に参拝して下さい」と言います。軍隊を持っている国には必ず靖国神社のようにその国を護る為に命を捧げた英霊を祀る場所があります。フランスの凱旋門、アメリカのアーリントン墓地、イタリアのヴィットリオ・エマヌエーレ2世記念堂、中国の天安門等で、それぞれの国が大切にしている場所です。日本も靖国神社を大切にすべきだと思います。また、中国や韓国は学校の教科書に自分の国の良い所を沢山書いてありますが、日本の悪口も沢山書いています。これは誠に良くない事です。毛沢東は7,500万人の人を殺しましたがそのような事は一切教科書に書かれていません。

自分の国の文化を大切にする

また、アメリカには博物館は350しかありませんが、日本には5,900もの博物館があり、その博物館では日本だけではなく、いろいろな外国の文化等が展示されています。特に日本の文化で言えば陶器は1万6千年も前からあり、この技術は世界一です。しかし、最近気が付いたのですが、このような日本の素晴らしい文化や歴史を若い人は十分理解していない事です。これは大変勿体ない事です。たとえば、恐らく80%位の方はハワイに行った事があると思いますが、沖縄に行った事がある人は少ないようです。海はハワイよりも沖縄の方が遥かに美しいです。ハワイの方が物価も高いし、食べ物もファスト・フードばかりだし、沖縄の方がのどかな雰囲気だし、治安も良いし、人々のハートが良いし、お料理も美味しいです。私自身の事で言えば、石垣島に行った時に神社をお参りしようとしたのですが、神社は無い、との事でしたので、石垣島に石垣サン・マリノ神社を立てられたら良いと思っています。サン・マリノ神社の分社になります。日本人は日本の素晴らしさに気が付いていません。イタリアには52の世界遺産があり、その数は世界で最も多いのですが、この事にイタリア人は気が付いていません。やはり「隣の芝は青く見える」のです。数年前のベネチア映画祭で最優秀賞を取った日本の「おくり人」の映画は、日本では亡くなった人をこれ程大切にするのか、と多くの外国人に感動を与えました。このような映画はアメリカでは作られません。アメリカの映画は暴力団とか戦争とか、若い人に悪い影響を与えます。世界中にある武器も約65%はアメリカ製です。世界から多くの若い人がアメリカに留学していますが、アメリカより日本に留学したほうが良い人間になると思いますし価格も安く済むと思います。また、アメリカでは外国人留学生はアルバイト禁止ですが、日本は違います。しかし、日本の留学生が外国で「何故靖国神社参拝が非難されるのか?」と訊かれた時に正しく答えられません。日本は戦争中も外国で良い事は沢山しているのです、この事についても正しく知らなければなりません。

観光を通じての日本文化の紹介も大切

そして、多くの外国人が日本に来やすくするためにはビザを取り易くする必要があります。これは日本のためにも世界のためにも必要だと思います。外国人が日本に来ると大変楽しく過ごして沢山のお金を使います。イタリアには毎年約7千万人の観光客があり、国内で最大のGNPを生んでいます。このお陰で雇用も増えています。多くの外国人が日本に来て日本人の清潔好き、礼儀正しさ等を知れば彼等の参考にもなります。そして外国人旅行者のためには民泊を広めたら良いと思います。現在東京には沢山の空き家がありますので、これを活用して民泊により日本人の日常生活と接するのも良いでしょう。中国や韓国の若い人達が日本に来たら日本が好きになると思います。また、日本の方が沢山サン・マリノに来て戴きたいと思います。サン・マリノで売られている物で一番人気のあるのが日本製の物です。それはアフター・サービスが良いからです。

まだまだ日本についてお話したい事は沢山ありますが、時間が来ましたので、これで終わります。

Q ヨーロッパの人達は仏教や神道について理解できるのでしょうか？ また、総理大臣が靖国神社を参拝すると中国や韓国が批判しますが、これについて如何思われますか？

A ヨーロッパには神社が一つだけあります。それはサン・マリノ神社です。この神社を通じて神道についての理解が少しずつ進んでいます。神道の自然崇拝の哲学がヨーロッパの人達にも理解されれば世界の平和にも繋がると思われます。また、靖国神社は日本のものですので外国の事を気にせず英霊のために首相等も参拝をすべきだと思います。

Q サン・マリノと日本の文化の共通性として何を感じられますか？

A サン・マリノだけではなく、ヨーロッパ全体が親日的です。ヨーロッパの首相が国民に向かってスピーチをする時に日本人の勤勉さを強調します。特にサン・マリノの場合は宗教はカトリックですが、大変宗教におおらかなので、日本に似ています。

Q 自分の国を客観的に見るためにはどうしたら良いのでしょうか？ 特に外国に行く機会の無い人はどのように日本の文化を客観的に見る事ができるのでしょうか？

A 先ず自分の国の文化を外国と比べて見る事です。外国に行く機会の無い人の場合は積極的に外国の人達と交際をしたり、書物を通じて自分の国について勉強する事が大切です。

Q 日本の国花は桜ですが、外国では菊の花にしばしば接します。なぜでしょうか？

A 菊の花は綺麗だけど派手ではなく地味であり気品を感じさせるからだと思います。菊は皇室の紋ですが、日本の皇室はヨーロッパの王室の較べて派手ではなく本当に謙虚で気品があります。

Q 日本の文化を若い世代だけではなく大人も子供も学ぶべきだと思いますがどのような動機付けが効果的だと思いますか？

A それは学校の教科書の果たす役割が大きいと思います。是非日本の教科書が日本の事をしっかりと書くべきだと思います。



講演後の懇親会

カデロ特命全権大使の素晴らしい講演の後に同じ場所で大使を囲んでの誠に和やかな懇親会が行われた。この懇親会には大使から大変美味しいサン・マリノのワインを沢山戴き、また会員の小室容子さんからも日本酒を差し入れられると共に、今回初めての企画の余興として、美しい鈴木菜穂子さんのフルート演奏や迫力ある柏田ほづみさんの歌曲独唱などを交えた語らいで約1時間が瞬く間に過ぎてしまいました。

事務局からのお知らせ

9月2日に第9回定時総会が水交会にて行われ各審議事項は決議されました。詳細に関しては後日別便にてお知らせします。特に重要な事項として、当会は活動を一層充実させるべく現在の立場を認定NPO法人に格上げすることを目指しています。そのための要件として、会の運営が幅広く寄付金で賄われていることが必要となります。その一つとして年会費(3,000円)の一部(1,000円)を寄付金とみなすことにより現行の定款を内規にあらためて定めることが決議されました。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

新年度に於ける年会費変更とお振り込みのお願い

今までは年会費が3,000円と5,000円(機関誌郵送)となっておりましたが、総会にて決議された通り本年度から
機関誌をメールなどインターネットで受け取る方は年会費2,000円＋一口1,000円以上、
機関誌を郵便などでの発送をご希望の方は年会費2,000円＋印刷発送代2,000円＋一口1,000円以上
と変更になりました。一口1,000円は寄付に当てさせていただき、何口お振り込みいただきましても構いません。皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。お振り込み先は、下記口座にお願いします。

当会はいまだ事務局員が少なく、危機的な状況が続いています。定例会の受付業務など、お手伝いを頂ける方を求めています。今回の機関誌も原稿執筆と写真の提供を多くの会員からのご協力を戴き、大変充実した紙面となりました。今後とも、皆様方より一層のご参加とご協力をお願い申し上げます。

今後の予定

10月5日(木) 第71回定例会 「我が国防衛の基礎知識」
講師:大橋 武郎 理事長 会場:東銀座カフェ・ジュリエ

11月2日(木) 第72回定例会 「我が国周辺における海上自衛隊の活動状況」
講師:海幕防衛調整官 西山 高広 1等海佐 会場:東銀座カフェ・ジュリエ

12月9日(土) 第27回研修会 「文楽教室」 国立劇場

年会費お振り込み先

ゆうちょ銀行 記号10380 番号92589171 (ゆうちょ銀行から振り込まれる場合)
店番038 普通預金 9258917 (ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込まれる場合)
名義 特定非営利活動法人 日本を護る会・日本ネイビークラブ

日本を護る会・レポート 第28号 平成29年9月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

URL: <http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail: info@defend-japan.org